

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成22年5月7日)

公治長第五

1 子 公治長を謂う。妻あわすべきなり。縲紲の中に在りと雖も、その罪に非ざるなりと。其の子を以て之に妻あわす。子 南容を謂う。邦道あるときは靡られず。邦道無きときは刑戮に免ると。其の兄の子を以て、之に妻あわす。

孔子が公治長について批評をしました。

公治長は娘を嫁にやってもよい人物だ。黒い縄で縛られて牢獄に放り込まれた人物ではあるけれども、それは無実の罪であるから、自分の娘を公治長に嫁入りさせた。

孔子が南容について言いました。

南容は国がよく治まっている時には登用される。乱世の時は、刑罰にあうようなことは免れる。そういう堅い人物なので、自分の兄の娘を嫁入りさせた。

孔子もやはり人の子だなと感じました。自分の娘については、前科者であっても見所ありと見込んで嫁入りさせたわけです。しかし自分の兄の娘については、乱世でもきちんと妻子を養うことが出来る堅い人物を選んでいきます。

現代で考えて見れば、無実の罪だとしても、見所があるからという理由で前科者に自分の娘を嫁がせることは、なかなか出来ないのではないのでしょうか。今の時代、前科者になるかならないか境界線ギリギリの人が多いため、そこらへんでどちらに落ちるかを見抜く力も必要なのだと思います。

民主党で言えば、鳩山さんも小沢さんもどちらに転がるか分からない状況で進んでいます。見所ありと見込んで何か大きな仕事を頼むような人であれば、乱世の時も世の中が治まっている時でも順調にゆくのではないかと読みます。

2 子 子賤を謂う。君子なるかな、若き人。魯に君子者無かりせば、斯れ焉んぞ斯れを取らんと。

孔子が子賤を評して言いました。

「子賤は立派な人間だ。魯には素晴らしい人物はいないというけれども、それならば、子賤は誰をお手本にして成長したのだろうか・・・」

これだけ立派な人物が魯の国で出ているのだから、魯にはお手本になる人物がかなりいると捉えれば良いでしょう。

今の日本で、子賤のような「君子なるかな若き人」はあまり見当たりませんので、手本になるような人物もやはりいないのだろうと思います。

渋沢栄一についてあまり知られていない話をご披露します。明治維新の頃は玉石混交と言われますが、その中で新撰組は血生臭い浪士集団という印象があります。近藤勇や土方歳三と渋沢栄一は繋がりがありません。

渋沢栄一は一橋家に仕官したつもりだったのが、一橋慶喜が将軍になりましたから、いつの間にか自分が倒そうと思っていた徳川幕府の家臣になってしまったわけです。幕臣になって、試された部分もあったのでしょう。幕臣の中で不穏な動きをしている人物を、捕まえて来るように命じられました。正使が渋沢栄一で、副使に新撰組を付けるからということでした。渋沢栄一は近藤勇に会い、「土方歳三を先に行かせて捕縛するから、その後で、罪状を口上をすればよい」と言われましたが、自分の腕に結構自信がありましたから、自分が先に乗り込むと主張しました。結果、土方歳三が折れて、渋沢栄一は一人で宿所に入って行き、大声で奉行の命により捕縛する旨を伝え、相手はその気迫に吞まれて神妙に縄を受けました。土方歳三は渋沢栄一に対して「胆力もあるし腕に覚えもあるようで、なかなかの人物である」と書き残しています。

渋沢栄一は後半は非常に温厚篤実なイメージがありますが、若い時は血氣に逸って、高崎城焼の乗取り計画や横浜の居留地焼討ち計画を企てたりしました。パリに行った時にもフランス人の武官と喧嘩して、まかり間違えば血生臭い事件になる所を未遂に終わっています。あちこちで死にそうな目に遭っていますし、かなり血の氣が多い人だったのだという印象を持っています。そういう血の氣の多い人間でも、孔子の真似をすれば君子になれるかもしれないと思って、一所懸命努力をしていったのでしょう。

「魯に君子者無かりせば」の部分で、明治維新の頃は、周りは君子者だらけだと渋沢栄一は書き残しています。なかでも明治維新の三傑は、特に凶抜けた君子だったとも書いています。周りにお手本となる人物が沢山いると、変わっていくのだと感じます。

3 子貢しこうと問いいて曰いく、賜しや何い如かんと。子曰しく、女しは器いなりと。曰いく、何なんの器きぞやと。曰いく、瑚こ璉れんなりと。

自分が人物だと思っている子貢が、子賤があれだけ褒められているのだから私も褒められるだろうと思って、「私はどうでしょうか」と孔子に聞いたわけです。

孔子に「お前は君子ではない。使われる側の人間だ」と答えられて、カチンと来たのだと思います。

「では、何の器ですか」と改めて聞いたところ、孔子がリップサービスも入っているでしょう、「お前は瑚璉である」と器物の中で最高のものを譬えたので、子貢も少しは納得したのではないかと感じます。

自分に自信があり過ぎると、周りは困りますね。今回の普天間問題で、鳩山さんは自信があり過ぎて、自分をごめんなさいと謝れば沖縄の人は許してくれるのかもしれないともしかして思っていたのではないかと感じます。器物なのに、使う側に回ってしまったことが鳩山さんの不幸の始まりではないかと感じます。5月に結論が出なければ、もしかすると退陣するでしょうが、退陣しなければ参議院選挙までにはトップが替わるでしょうし、もし替わらなければ、支持率も10%台になって参議院選挙もメッタ負けになるだろうと思います。

以上で本日の論語の解説は終了です。